

# YAMAKADO NEWSLETTER

NO.168

2013/11/19

山門水源の森を次の  
世代に引き継ぐ会



## 解説用「炭窯」復元好評

材の詰め込み作業(13/10/19)

「山門水源の森が 1960 年代まで薪炭林でした」と来訪者にガイドするのだが、その中身となるとガイドをする会員も炭焼きの経験者は若干名。そこで観察コース（沢道を登り詰めたところ）にある炭窯跡を整備し、炭窯の全体の 1/4 を復元し内部の構造が観られるようにしました。今後屋根も復元したいと考えていますが、積雪のことを考えると・・・同時に会員も材の詰め込み・窯打ちを体験しガイドの中身の充実を図ることとしました。



来訪者に炭窯の中で解説(13/10/18)



窯打ち(13/10/19)



ビワマスの遡上(13/10/18)

今年も台風 18 号の増水後大浦川にビワマスが遡上してきてくれた。琵琶湖と大浦川の環境が未だ維持されていることにホッとするシーズンでもある。このような環境が今後とも続くよう保全作業をと思う。



ビワマスの産卵(13/10/18)





湖北森林整備事務所の現地指導(13/10/19)

## 植林地の整備も



間伐とテープ巻き開始(13/11/06)

観察コース沿いのヒノキ林の大半は整備がされておらず、その一部は一昨年から枝打ち・間伐を行ってきた、今年は改めて湖北森林整備事務所の方から間伐についての法・理論・現地指導をしてもらい本格的に整備を始めました。間伐については、長浜市に申請書を提出しその許可を待って早速作業を開始しています。同時に今年はシカの繁殖期に入って、ヒノキへのシカの角研ぎが顕著となりその保護策としてビニールテープ巻きも実施しています。この作業は観察コース沿いを手始めに順次拡大してゆく予定です。



「プロジェクト未来遺産」審査委員現地視察(13/10/08)

寺尾氏 土屋教授



永原小6年生林床整備(13/10/22)

日本ユネスコ協会が行っている「プロジェクト未来遺産」に応募し書類審査が通過したためユネスコ協会の審査員(琉球大学土屋誠教授)とユネスコ協会寺尾氏(長浜市ユネスコ協会職員も同行)が現地視察にこられ案内した。審査結果は12月中旬には判明するはず。今年も永原小学校6年生の子どもたちや山門老人会の方々が林床整備・草刈に協力頂き観察コースはスッキリしました。また塩津小学校の子どもたちの地層学習に会員が協力しました。台風18号で湿原に流入した土砂の状況などを調べるため上空からの撮影も行いました。



山門老人会の皆さんの草刈(13/11/06)

PHOTO BY TAKEBATA



台風18号での土砂流入

13/11/05



塩津小地層学習(13/11/06)

PHOTO BY N. HASHIMOTO